

東京都葛飾区 校務D X計画

1 校務D Xの推進

本区では、「かつしか教育情報化推進プラン（2024年度～2028年度）」（葛飾区学校教育情報化推進計画）を策定し、学校におけるI C T環境の整備や、I C T推進体制の確保等に取り組み、I C Tを活用した教員の働き方改革に向けて、校務D Xを推進しています。

2 これまでの取組

【現状】

区では、教員の長時間労働の改善と意識改革を図るため、「葛飾区立学校における働き方改革推進プラン」を策定し、教員の業務負担の軽減に取り組みました。

また、学校教育総合システムのリプレイスに合わせ、出退勤管理システムの導入による教員の在校等時間の把握や校務用端末と学習用端末の統合、校務支援システムの運用方法の統一等による校務の効率化を図るとともに、令和3年度に保護者連絡アプリケーションを導入し、保護者との連絡をデジタル化するなど、校務の情報化の推進に取り組みました。

このような取組により、令和5年度の「葛飾区教育情報化に関するアンケート調査」において、葛飾区の教員が以下の設問に対して、肯定的な回答をした割合は、前プランで定めた目標値を上回る結果となりました（令和5年度時点）。

一方で、一部の校務は効率化できたものの、アナログな処理が浸透している業務も多くあり、更なる校務のデジタル化を進め、学校における働き方改革を強く推進していく必要があります。

指 標	令和5年度	
	目 標	結 果
「校務の効率化により、児童・生徒に対して向き合う時間を増やすことができた」と感じる教員の割合	35.0%	47.0%

【課題】

今後より一層、学校の働き方改革を推進するため、紙ベースでの処理を前提としていた校務事務の電子化をはじめ、学校教育総合システムのリプレイスに合わせて機能の充実を図り、更なる校務の効率化を推進する必要があります。また、各学校におけるI C Tを活用した校務事務効率化の実践例を共有するとともに、教員の多様な働き方に応えられるよう、学校以外の場所でも端末を使って事務処理が行える環境の充実を検討する必要があります。

3 今後の取組（一部、令和6年度実施済）

（1）ICTを活用した校務事務の情報化

ア 出退勤管理システムによる教員の勤務実態の把握

管理職及び教員一人一人が勤務時間を意識した働き方を実践できるよう、出退勤管理システムによる教員の勤務時間の把握を継続します。

イ 中学校デジタル採点システムの導入（令和6年度実施済）

中学校の定期考査における採点事務の効率化を図るため、区立中学校全校に対してデジタル採点システムを導入しました。

ウ 汎用クラウドツールの活用

紙ベースでの処理を前提としていた校務事務の電子化をはじめ、教育委員会と学校間における文書連絡事務や旅費申請事務、出退勤管理事務の効率化や、学校教育総合システムのリプレイスに合わせた汎用クラウドツールの活用等、校務事務のデジタル化を推進します。また、生成AI等の先進技術を利用した校務の効率化も検討を進めます。

※令和7年4月から、校務における生成AIの活用を予定

エ 学校内印刷環境の見直し（令和6年度実施済）

校務用プリンタの更改に合わせ、ステープル機能等を備えた高速印刷機を全校に導入しました。また、導入に当たり、学校全体の印刷環境を見直し、プリンタや複合機のスリム化及び一元管理化を図り、学校での運用や管理の煩雑さの解消を図りました。

（2）校務事務のロケーションフリー化

ア 持出用端末の増強（令和6年度実施済）

教員の適切な勤務時間管理やセキュリティ対策の実施を前提とした上で、学校教育総合システムのロケーションフリー化を推進するため、令和6年度の教職員端末の入替えに合わせ、学校外でも業務が行える持出用端末の増強を行いました。

イ クラウドを活用したロケーションフリー化の導入

学校教育総合システムのリプレイスに合わせ、クラウドを活用した全端末のロケーションフリー化を目指します。

（3）保護者や地域との連絡の情報化

ア 保護者連絡アプリケーションの活用

各学校において、保護者連絡アプリケーションを有効に活用し、保護者とのコミュニケーションの充実を図ります。

イ 地域との連携方法の検討

汎用クラウドツールの活用も視野に、地域との連携方法の情報化について検討します。

（4）教育データの活用による個に応じた指導の充実

ア 教育ダッシュボードの活用による個に応じた指導の充実

本区における教育データの活用方針を整理するとともに、教育ダッシュボードの活用による個に応じた指導の充実を目指します。なお、活用方針の整理に当たっては、学校現場や有識者を交えながら、教育データの活用目的やプライバシー保護の観点について、慎重に検討します。

※令和7年4月から、校務データを活用して学校や学級の状況をグラフや表などで可視化する、校務ダッシュボード機能を校務支援システムに導入予定

(5) 働き方改革の推進に向けた I C T活用方針の見直し

ア 校務事務における I C T活用方針の見直し

デジタル採点システムや汎用クラウドツール等の新ツール導入により、全教員が校務事務の情報化による効果を楽しむことができるよう、都度運用ルールを見直して全校に周知し、統一的な運用を進めます。